

2020 12/22・2021 1/12合併号

No.2129・2130

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



新型コロナ対応の医療従事者へ希望の光を届けようと、聖マリアンナ医科大学で3月末まで青いイルミネーションがともされている。



contents

視点点描	3
新企画「マイカナ」発信	
国際	4
米中の角逐に巻き込まれる台湾 消える「海峡中間線」	
政治双眼鏡	9
権勢高まる幹事長 菅政権内の権力構造の変化	
国際	10
米新政権の誕生をどう見るか 中国、“老朋友”の対中政策	
風人来人	13
60%台の船出だが…	
社会	14
課題多い不妊治療への保険適用 求められる丁寧な制度設計	
くらし2020	16
高齢者うつ病は早期発見が鍵	
企業最前線	18
重機の接触リスクを低減 建設業界、AI搭載システム活用で	
アジアの風	20
「キムチ」で中韓が文化衝突	
NNAアジア経済リポート	21
神奈川景気データファイル 会員コーナー	22
神奈川景気データファイル	23

事務局だより

◇2021年1月定例講演会 特別講演
ユーチューブによるライブ配信
配信日時 1月12日(火)午後0時30分～1時30分
講師は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長の森喜朗氏
演題は「さあ、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックだ。」

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページ(www.kanagawa-seikon.jp)に会員コーナーを設けました。新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな情報を掲載します。問い合わせは事務局☎045(226)2121。

視点



新企画「マイカナ」発信

「新聞離れ」と言われて久しい。

問題は発行部数の減少にとどまらない。新聞に対する世間の信頼が、大きく揺らいでいるのだ。

記者の「伝えたい」「知らせなければ」と、読者の「知りたい」の間に溝があるのではないか。新聞は読者の役に立っていないのではないか。新聞社の多くは昨今、そうした葛藤を抱きながらニュー

スを発信している。

ならば「読者のための報道」に従事しよう。そんな思いで来年1月から神奈川新聞社が始める新企画が「追う！マイ・カナガワ」（略称マイカナ）だ。無料通信アプリ「LINE（ライン）」でつながった読者から情報を寄せてもらおう。

マイカナに
友だち登録し
情報をお寄せ
ください！
（LINE）

（神奈川新聞社統合編集局次長
佐藤 奇平）

なく、課題の解決に寄与する。オ
ンデマンド調査報道（JOD）と
呼ばれる手法だ。

例えば、こんな「ニュース」。

「事故続発『暗いトンネル』なぜ・
小谷の国道トンネル」（信濃毎日
新聞社、2019年10月）

長野県小谷村にある国道トンネ

ルが「暗くて怖い」と読者から情
報が寄せられた。記者が現場に行

くと、トンネル内の照明が間引か
れていた。地元署によると、原因

は不明だが、過去2カ月間に死亡
事故を含む人身事故が2件、物損
事故が2件起きていた。道路管理

者の県は「電気代の節約」と明か
す一方、「最低限の明るさは確保
している」と説明した。記者は問
題提起する。「事故との因果関係

マートフォンから投稿できる手軽
さと、記者と1対1でつながれる
身近さも手伝って、既に全国で27
のローカルメディアが取り組んで
いる。読者との信頼関係再構築に
も役立っているという。

マイカナの「友だち」登録は、
上のQRコードからどうぞ。

が明確でないとしても、『怖いト
ンネル』と感じる住民がいること
事にはならかっただろう。だが「読
者の知りたいに応える」というJ
ODのスタンスだからこそ、因果
関係が不明でも記事となつた。報
道後、県は照明をLEDに切り替
え、間引きもなくしたという。

「マイカナ」が目指すのは、こ
うした課題解決型の記事だ。視点
自体が新しいわけではないが、ス
トーリーテリングの技術が進化して
きた。読者の心を惹き込むためのテ
クニックが確立され、それが読者の
行動を変える力につながる。これが
「マイカナ」の強みだ。